

病虫害発生予報 第5号（8月予報）について

令和8年度病虫害発生予報 第5号（8月予報）を別添のとおり発表します。

（補足）

県農作物病虫害防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

「病虫害発生予報」は病虫害の発生予測及び防除情報を定期的に発表するもので、本県の場合は4～11月に月1回発表しています。

（連絡先）

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病虫害防除所
担当者	直川	岡本
電 話	073-441-2905	0736-64-2300

病虫害発生予報 第 5 号 (8 月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所

< 予報の概要 >

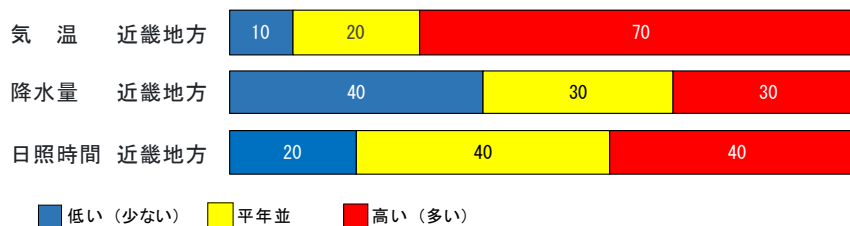
作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水 稻	いもち病	早 期 やや多 普 通 期 少	カンキツ	黒点病	やや多
	紋枯病	並		かいよう病	やや少
	縞葉枯病	並		ミカンハダニ	やや多
	ヒメトビウンカ	やや少		ヤノネカイガラムシ	並
	ツマグロヨコバイ	やや少		チャノキイロアザミウマ	並
	セジロウンカ	少		ゴマダラカミキリ	並
	トビイロウンカ	やや少			
	イチモンジセセリ	やや多	カキ	炭疽病	やや少
	コブノメイガ	やや少		うどんこ病	やや少
	斑点米カメムシ類	並		円星落葉病	並
野 菜 全 般	アブラムシ類	やや少		角斑落葉病	並
	ハダニ類	やや少		フジコナカイガラムシ	並
	ミナミキイロアザミウマ	やや少	果樹全般	カメムシ類	多
	ミカンキイロアザミウマ	並			
	ハスモンヨトウ	並			
	シロイチモジヨトウ	やや多			

気象予報

近畿地方 1 か月予報 (07/25～08/24)

2026年07月23日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 07/25～08/24	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 07/25～07/31	気温	1週目は、高い確率70%です。
2週目 08/01～08/07	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 08/08～08/21	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



I. 水稻

1. いもち病

- | | | | |
|----------|-----|-----------|----------|
| (1) 予報内容 | 発生量 | 早期
普通期 | やや多
少 |
|----------|-----|-----------|----------|

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における 7 月上旬の葉いもちの発生ほ場率は 50%（平年 18%）、発病株率は 3.3%（平年 4.5%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における 7 月上旬の葉いもちの発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 19%、発病株率 3.0%）であった。
- ③ 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期に追加防除を行う。
- ② 常発地では翌年から罹病性品種の作付けを避ける。

2. 紋枯病

- | (1) 予報内容 | 発生量 | 早期 | 並 |
|----------|-----|-----|---|
| | | 普通期 | 並 |
| 1. 予報内容 | | | |
| 2. 発生量 | | | |
| 3. 早期 | | | |
| 4. 並 | | | |
| 5. 普通期 | | | |
| 6. 並 | | | |

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における 7 月上旬の発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 12%、発病株率 1.1%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における 7 月上旬の発生ほ場率は 0%（平年 0%）であった。
- ③ 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に発病株率が20%以上のほ場では、早急に薬剤防除を行う。
- ② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加防除を行う。

3. 綫葉枯病

- | (1) 予報内容 | 発生量 | 早期 | 並 |
|----------|-----|-----|---|
| | | 普通期 | 並 |
| 1. 予報内容 | | | |
| 2. 発生量 | | | |
| 3. 早期 | | | |
| 4. 並 | | | |
| 5. 普通期 | | | |
| 6. 並 | | | |

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における 7 月上旬の発生ほ場率は 0%（平年 0%）であった。
- ② 県北部および中部の普通期栽培における 7 月上旬の発生ほ場率は 0%（平年 0%）であった。
- ③ 媒介虫であるヒメトビウンカの 8 月の発生量は、県南部で並、県北部・中部でやや少と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病の発生が多いほ場では、ヒメトビウンカの防除を行う。

4. ヒメトビウンカ

- | | | | |
|----------|-----|-----|-----|
| (1) 予報内容 | 発生量 | 早期 | やや少 |
| | | 普通期 | やや少 |

(2) 予報の根拠

- ① 7月上旬の県南部（田辺市以南）の早期栽培における発生ほ場率は33%（平年50%）、25株あたり生息密度は0.5頭（平年5.5頭）であった。
- ② 7月上旬の県北部および中部の普通期栽培における発生ほ場率は0%（平年40%）、25株あたり生息密度は0頭（平年4.4頭）であった。
- ③ 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年4.8頭）、上富田町0頭（平年1.2頭）、那智勝浦町0頭（平年7.9頭）であった。

① 縞葉枯病の発生が多いほ場では、本虫の防除を行う。

(1) 予報内容	発生量	早期	やや少
		普通期	やや少

- ① 7月上旬の県南部（田辺市以南）の早期栽培における発生ほ場率は33%（平年37%）、25株あたり生息密度は2.2頭（平年2.5頭）であった。
- ② 7月上旬の県北部および中部の普通期栽培における発生ほ場率は8%（平年32%）、25株あたり生息密度は0.3頭（平年1.4頭）であった。
- ③ 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年5.3頭）、上富田町0頭（平年16.8頭）、那智勝浦町18頭（平年119.4頭）であった。
- ④ 8月の気象予報による。

(1) 予報内容	発生量	早期	少
		普通期	少
...	...	...	...

- ① 7月上旬の県南部（田辺市以南）の早期栽培における発生ほ場率は17%（平年72%）、25株あたり生息密度は0.7頭（平年19.3頭）であった。
- ② 7月上旬の県北部および中部の普通期栽培における発生ほ場率は17%（平年44%）、25株あたり生息密度は0.2頭（平年11.2頭）であった。
- ③ 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市1頭（平年54.9頭）、上富田町0頭（平年82.3頭）、那智勝浦町1頭（平年71.3頭）であった。

① 穂ばらみ期に株あたり成幼虫 10 頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

(1) 予報内容	発生量	早期 普通期	やや少 並
----------	-----	-----------	----------

- ① 7月上旬の県南部（田辺市以南）の早期栽培における発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率2%、25株あたり生息密度0.03頭）であった。
- ② 7月上旬の県北部および中部の普通期栽培における発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率2%、25株あたり生息密度0.04頭）であった。
- ③ 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年2.5頭）、上富田町0頭（平年18.0頭）、那智勝浦町0頭（平年21.7頭）であった。

① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫5頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

(1) 予報内容	発生量	早期	やや多
		普通期	やや多

- ① 7月上旬の県南部（田辺市以南）の早期栽培における発生ほ場率は83%（平年2%）、25株あたりツト数1.0（平年0.02）であった。
- ② 7月上旬の県北部および中部の普通期栽培における発生ほ場率は13%

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率および生息葉率は0%（平年：発生ほ場率12%、生息葉率0.8%）、モモ

アカアブラムシの発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 2%、生息葉率 0.6%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）による 7 月 1～20 日の飛来数は 12 頭（平年 21.4 頭）であった。

③ 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける 7 月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は 10%（平年 38%）、生息葉率は 2.2%（平年 6.9%）、ナミハダニの発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 14%、生息葉率 3.3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける 7 月下旬の発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 16%、生息葉率 2.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ナスでは、収穫果実の選別時に被害を認めたら防除を始める。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は 4～5 日間隔で 2 回以上、薬剤を散布する。

④ 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で 7～10 日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける 7 月下旬の発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 3%、生息葉率 0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける 7 月下旬の発生ほ場率は 0%（平年 2%）、生息葉率は 0%（平年 0.02%）であった。

② フェロモントラップによる 7 月 1～20 日の誘殺数は、和歌山市 175 頭（平年 164.4 頭）、紀の川市 61 頭（平年 126.6 頭）、御坊市 77 頭（平年 139.3 頭）であった。

③ 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

- ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

6. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
(2) 予報の根拠
① フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、紀の川市67頭（平年32.2頭）、御坊市152頭（平年75.5頭）であった。
② 8月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① ハスモンヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
(2) 予報の根拠
① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の果実での発生ほ場率は70%（平年31%）、発病果率は22.0%（平年5.8%）であった。
② 8月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 秋雨時期における後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。
② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。
③ 過乾燥等で樹勢が低下すると枯枝が増えるおそれがあるため、かん水等の栽培管理を適切に行う。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
(2) 予報の根拠
① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の春葉での発生ほ場率は11%（平年26%）、発病葉率は0.5%（平年1.2%）であった。
② 8月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点
① 台風の接近等で強風雨が予想される場合には事前に薬剤散布を行う。
② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。
③ ミカンハモグリガによる新葉の食害痕は病原菌の侵入口となる。幼木や高接樹では新葉が発生しやすいため本害虫の防除を徹底する。
④ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
(2) 予報の根拠
① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は48%（平年30%）、発生葉率は19.0%（平年8.8%）、100葉あたり雌成虫数は96.0頭（平年36.2頭）であった。
② 8月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は2%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第2世代2齢幼虫の発生最盛期は8月下旬頃と考えられる。発生ほ場ではこの時期に、散布むらがなく葉裏までかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は5%（平年2%）、果実の被害ほ場率は22%（平年16%）であった。

- ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる7月1～20日の誘殺数は、由良町124頭（平年166頭）、有田川町18頭（平年137頭）であった。

- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。

- ② 発生ほ場およびイヌマキやサンゴジュに隣接するほ場では防除を徹底する。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 成虫の捕殺に努めるとともに、放任ほ場周辺など発生の多いほ場では、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬液を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」0%（平年7%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0%）であった。

- ② 県北部における7月中旬の発病果率は「富有」0%（平年0.5%）であった。

- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

- ② 台風が接近する場合は事前に薬剤を散布する。散布できなかったほ場では台風通過後速やかに散布する。

- ③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光

をはかり、薬液をかかりやすくする。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」38%（平成64%）、
「刀根早生」・「平核無」6%（平成19%）であった。
- ② 県北部における7月中旬の発病葉率は「富有」2.6%（平成4.3%）、
「刀根早生」・「平核無」0.1%（平成0.5%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 一般に盛夏期の発病は一時休止するが、山間部や風通しの悪いほ場は発病を繰り返しやすいため、これらのほ場では秋雨前の予防散布に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は14%（平成39%）、
発病葉率は0.6%（平成3.3%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
- ② 子のう胞子の飛散が続く8月上旬まで防除が必要である。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は86%（平成75%）、
発病葉率は9.6%（平成13.0%）であった。
- ② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
- ② 本病は7月頃から発病し二次伝染を繰り返すので、多発ほ場では発病後も防除を励行する。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」25%（平成38%）、
「刀根早生」・「平核無」12%（平成7%）であった。
- ② 県北部における7月中旬の寄生果率は「富有」0.6%（平成1.8%）、
「刀根早生」・「平核無」0.2%（平成0.4%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第2世代ふ化幼虫の発生時期は7月下旬～8月上旬頃と考えられる。発生ほ場では8月上旬頃に、散布むらがなくへたにもかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のカキにおける 7 月中旬の被害発生ほ場率は「富有」44%（平成 14%）、「刀根早生」・「平核無」6%（平成 7%）であった。また被害果率は「富有」1.0%（平成 1.4%）、「刀根早生」・「平核無」0.1%（平成 0.5%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯における 7 月 1～20 日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが 2,263 頭（前年 30 頭、平成 1,686 頭）、ツヤアオカメムシが 3,572 頭（前年 4 頭、平成 586 頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯における 7 月 1～20 日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが 2,768 頭（前年 34 頭、平成 1,191 頭）、ツヤアオカメムシが 1,170 頭（前年 5 頭、平成 353 頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯における 7 月 1～20 日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが 817 頭（前年 52 頭、平成 935 頭）、ツヤアオカメムシが 712 頭（前年 16 頭、平成 307 頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
- ② 飛来の多いカンキツほ場では落果が多数発生する可能性があるため、防除を徹底する。
- ③ カキでは「富有」で被害が大きいため、特に注意が必要である。
- ④ ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ⑤ 今後の発生動向については、農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報 (<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368/kajukame.html>) や、各地域の振興局農業水産振興課、JA 等の情報を参考にする。
- ⑥ 令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 1 号（令和 8 年 4 月 23 日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780